

# 教点連ニュース 平成27年度 第1号 No.26

平成27年4月9日

## 【平成27年度第1回（21回）総会、セミナーのご案内】

### 《総会》の開催

日時： 平成27年6月13日（土）11時～12時

場所： 日本点字図書館3階多目的室

議題：①平成26年度事業報告および決算の承認

②平成26年度監査報告

③役員選出の件

④平成27年度事業計画および予算の承認

\*総会にご欠席の会員の方は、同封の委任状を事務局にお送りください。

### 《セミナー》

日時： 平成27年6月13日（土）13時半～16時半（受け付け開始13時）

場所： 日本点字図書館3階多目的室 〒169-8586 新宿区高田馬場1-23-4

テーマ：「ほんとにこれでいいの、デジタル教科書

～視覚障害児童生徒の使用文字・点字の行く末」

内容： 差別解消法施行が来年の4月に近づいている今、点字使用の視覚障害児童・生徒の教科書へのアクセスはどのようになっていくのでしょうか。デジタル教科書において視覚的教材や音声教材の研究は進んでいますが、点字教材に関する分野は十分議論されていないのではないのでしょうか。

今後、点字使用の生徒が手にする教科書の形態は、変化していくのか、それとも変化しないのか。もしも、デジタル教科書を利用するならば、どのような配慮が必要なのか。視覚障害児童・生徒にとって最適な教科書提供のあり方を考えます。

主催： 全国視覚障害児童・生徒用教科書点訳連絡会

協力： 日本盲人社会福祉施設協議会、全国盲学校長会

プログラム： 13:30～13:35 開会挨拶

13:35～14:05 講演 「合理的配慮と教科書提供」

文部科学省初等中等教育局教科書課 ご担当者

14:05～15:05 研究発表

- ①「数式点字変換ソフトを用いた点字データの活用」 澤村潤一郎氏  
(日本点字図書館録音製作課 電子書籍製作室)
- ②「点字を付加した E-PUB の事例」 長岡英司氏  
(筑波技術大學教授、当会理事)

休憩

15:20～16:20 パネルディスカッション

パネラー：文部科学省ご担当者、柳原和弘氏（日本文教出版株式会社）、  
長岡英司氏（当会理事）、澤村潤一郎氏（日本点字図書館）  
司会 加藤俊和（当会理事）

16:20～16:30 まとめ 奥野真里(理事)

16:30 閉会

参加費：無料

参加ご希望の方は、6月6日（土）までに、氏名、所属（電話番号、Eメール）、  
点字資料希望の有無をご記入の上、当会事務局までメールかファクスでお申し込み  
ください。

お申し込み・お問い合わせ：

全国視覚障害児童・生徒用教科書点訳連絡会事務局（日本点字図書館内）

電話 03-3209-0241

ファクス 03-3204-5641

Eメール [matsumotom@nittento.or.jp](mailto:matsumotom@nittento.or.jp)

## 【平成 26 年度第 4 回理事会記録】

日時：平成 27 年 2 月 28 日（土）13:00～16:30

場所：日本点字図書館会議室

参加者：田中、池村、加藤、鈴、高橋、野々村、古谷、三上、奥野、松本

議題

- 26 年度事業報告、決算について
  - 「教科書点訳の手引」の残部は、2 月末現在 116 冊。今のところ増刷はしない予定。これまでいただいた寄付金は今後の資金として計上させていただく。
- 27 年度事業計画、予算について
  - 次年度予算については、「教科書点訳の手引」に関する大きな収支は発生せず、収入、支出ともに、例年通りの見込み。

事業計画について：

- ・デジタル教科書において、画像情報の提供方法をどうするか。点図にするのか、言葉による説明にするのか。説明にする場合は。墨字を音声・点字に変換できるシステムにしなくてはならない。
- コンテンツをしっかりと音声に変換し、点字資料も手元においておくことが、今後、条件になるのではないか。
- ・デジタル教科書の取り組みが進む中、点字使用者が取り残されないようにするため、教点連としてデジタル教科書の研究チームを立ち上げてはどうか。
- 研究チームは、デジタル教科書に関する情報を収集し、関係機関とやりとりをしていく。まず、ML を立ち上げて、情報共有を行う。ML は加藤理事が準備する。
- 委員会メンバー：理事から、田中、加藤、長岡、鈴、野々村、奥野、松本（事務局）。
- 関係団体から、久保田氏（日本ライトハウス）、柳原氏（日本文京出版）に依頼
- ・「教科書点訳の手引」をマニュアルに、教科書点訳における点字表記に関する研修会を今後も開催する。

## 【平成 26 年度第 2 回（20 回）セミナー報告】

2014 年 11 月 8 日（土）に、名古屋市総合社会福祉会館において、秋のセミナーを開催した。約 50 名の方が参加された。

デジタル教科書の導入が進む中、点字教科書の今後の在り方を検討していくために、今回は、デジタル教科書について学び、合わせて音声教材と点字教材の併用に関する取り組みの研究発表を行った。そして、当会が発行した、『教科書点訳の手引』の活用方法についての研修を行った。まず、読書工房の成松一郎氏から、デジタル教科書・教材の普及に向けた文科省を中心とする国の動きや、出版社の動向、またデジタル教科書の端末やコンテンツのアクセシビリティの現状について報告していただいた。

2009 年 12 月、総務省が「原口ビジョン」を打ち出したのを皮切りに、全ての小中学生にデジタル教科書を配布する動きが始まった。特に、タブレット端末が発売されて以降は、デジタル教科書・教材の構想がいきなり加速した。その後、「デジタル教科書教材協議会」が発足し、総務省では ICT 活用による実証研究「フューチャースクール推進事業」を開始。また、文科省も「教育の情報化ビジョン」を取りまとめ、総務省の事業と連携し、「学びのイノベーション事業」を始めた。

現在、複数の教科書出版会社が組織する CoNET を結成し、各社で別々のシステムを作るのではなく共通の仕組みづくりをし、デジタル教科書・教材に生かそうという動きがある。

また、国立特別支援教育総合研究所では「デジタル教科書ガイドライン」の試作版を製作し、端末やソフトウェア、コンテンツなどのアクセシビリティについて研究を続けている。デジタル教科書において、テキストと図だけのシンプルなデザインであると、よりアクセスしやすく、かつ学びやすくなるという期待が高まる一方、点字・点図の利用についてはまったく言及され

ていない。この点について、点字使用の児童・生徒のための教科書・教材を踏まえ検討してもらうよう、私たちも声を上げていく必要があるだろう。

続いて、日本ライトハウス情報文化センターの久保田文氏から、2013年度に行った、視覚的資料の音訳と点字教科書の併用に関する研究発表をしていただいた。この研究では、特別支援学校、または地域の学校で点字による教科学習を行う視覚障害児童生徒のうち、発達障害や知的障害等の重複障害により、点字だけの理解が難しいお子さんや、点字に切り替えたばかりで触読がスムーズでないお子さんに対して、写真・図・表・絵などの視覚的資料を音声で説明した「音訳教材」を併用した場合にもたらされる効果について、モニタリングなどを通して検証した。音訳教材は、音声デジフォーマットを採用した。読むスピードや視覚的資料の説明に用いる用語や表現方法は各モニターの状況に合わせた。その結果、点字だけでは内容を理解できなかった児童生徒やその担当教員から、音訳教材と併用することで内容の理解が進んだとの評価を得られた。また、これまで音訳というものを知らなかったという声も多く聞かれ、今後、よりいっそう教育現場にデジの有用性を周知していく必要があると締めくくられた。

最後に、加藤俊和理事から、「教科書点訳の手引」の概要と使い方について解説していただき、研修を行った。

なお、この「教科書点訳の手引」の点字データが、すでにサピエ図書館にアップされていますので、活用してください。

## 【事務局からのお知らせ】

### ＜会費納入のお願い＞

27年度会費を同封の振替用紙にてご納入ください。

振込口座番号：00180-7-262151（個人・ボ団体＝5,000円/施設2万円）

加入者名：全国視覚障害児童・生徒用教科書点訳連絡会

よろしく願いいたします。なお、総会の際にお支払いいただいても結構です。

発行日：平成27年4月9日

発行所：NPO法人全国視覚障害児童・生徒用教科書点訳連絡会

ホームページ：<http://kyotenren.web.fc2.com/>

発行人：田中徹二

連絡先：（社福）日本点字図書館 担当：田中・松本

〒169-8586 新宿区高田馬場1-23-4

Tel：(03)3209-0241 Fax：(03)3204-5641

E-mail：[matsumotom@nittento.or.jp](mailto:matsumotom@nittento.or.jp)

振込口座番号：0180-7-262151